

パソコン1台でも複数台でもこんなに便利!

Photo: Nakamura Tohru

ダイアルアップルーター 購入ガイド

ダイアルアップルーターの新製品が続々と登場して、以前にも増して低価格化と高機能化が進んでいる。価格はTAと変わらなくなってしまった。もはやコンピュータが1台だからTA、複数台あるからダイアルアップルーターという時代ではないのだ。今回は、PC1台の環境に導入する場合とPCが複数台ある環境に導入する場合とにわけて、それぞれのユーザーのニーズに合った最適なダイアルアップルーターの選び方を紹介しよう。

梅垣まさひろ

低価格化と多機能化で、 ルーター時代がやってくる

ダイアルアップルーターが本当に安くなった。TAとダイアルアップルーターの価格は、その区別が曖昧になるほど接近して、価格の逆転現象さえ見られるほどだ。パソコンショップには、TAよりも高く積まれたダイアルアップルーターをよく見かける。いそいそとダイアルアップルーターを買って行くユーザーの姿も、今では珍しくなくなった。

「アナログ機能ならTA、データ通信ならダイアルアップルーター」という住み分けを1年前までは考えていたが、電話機能を充実させたダイアルアップルーターが次々と登場してき

て、TAとの機能的な住み分けも崩れてきた。ルーター機能でも、複数プロバイダーの使い分けやテレホーダイ対応、異常課金制御など、ユーザーの要望に応えた機能が次々と取り込まれている。スピードは出るが本来運転の難しいスポーツカーに、オートマチックとエアバッグを装備したような、そんな快適さをダイアルアップルーターは備えはじめている。古いクルマに見切りをつけて、新車で情報ハイウェイをかつ飛ばしてみたいと思うのは自然なことではないだろうか。



ダイヤルアップルーターとTAの ここがここが×

TAとダイヤルアップルーターのどちらを購入するかで悩む人は多いだろう。ダイヤルアップルーターが便利なことは分かっているが、「自分には難しくてうまく使いこなせないのでは」という不安から、TAに落ち着くというケースもあるだろう。そこで、PCが1台の環境に導入する場合と、SOHOのようにPCが複数台ある環境に導入する場合の2つのケースで、ダイヤルアップルーターとTAの良いところと悪いところを比較してみることにしよう。

PC 1台の環境に導入

たとえPCが1台しかなくても、ダイヤルアップルーターを導入する価値は十分にある。ダイヤルアップルーターを導入すると分かるが、TAと比べてインターネットを利用しようと思えば、実際に使うまでの流れが非常にスムーズなのだ。PPPソフトを起動して、接続ボタンを押してといった一連の作業が必要なく、WWWブラウザを起動するだけで、まるで常時接続であるかのようにホームページが表示される。ダイヤルアップルーターには、すんなりとインターネットの世界に入っている快感があるのだ。

また、ノートパソコンをメインに使っている人にとってのメリットもある。TAはノートパソコンユーザーには厄介な代物だ。外付けタイプのものはいちいちシリアルポートに接続しなければならないし、PCカードタイプのものだとアナログポートが使えない。ダイヤルアップルーターの場合は、LANカードを購入する必要があるものの、接続は簡単だし、ケーブルを長く延ばすこともできる。ノートパソコンの手軽さを損なうことがないというわけだ。

ただし、ダイヤルアップルーターで気をつけたいのがアプリケーションへの対応だ。新しいネットワークゲームやストリーミング系のアプリケーション、特殊なネットワークツールなどの中には、ダイヤルアップルーターでは使えないものがまれにある。特に、複数のPCで使うときに便利なIPマスカレードを使うと、NATに比べて動作するアプリケーションが少なくなってしまう傾向が強い。このような場合にはTAのほうが軍配が上がる。

POINT

PC 1台の環境に導入する場合の評価ポイント

	TA	ルーター
PPPソフトを使わずにすむ	×	
PCと離れた場所に置ける	×	
電話機能が充実している		
すべてのネットワークゲームが動く		×

この2つの表を見てみると、PC1台の環境に導入する場合にはアプリケーションへの対応からTAという選択肢もありうるが、PC複数台の環境に導入する場合はダイヤルアップルーターの圧勝だ。設定の難しさを克服して、ルーターの快適さをぜひとも享受してもらいたい。

PC複数台の環境に導入

もう1つのケース、PCが複数台あるSOHOクラスのオフィスに導入する場合はどうだろうか。まず、複数のパソコンから同時にインターネットを利用できることが、ダイヤルアップルーターを導入するもっとも大きなメリットだ。いちいちTAをつなぎ換えたり、PCの台数分だけTAを用意したりといった無駄はない。また、あたりまえのことかもしれないが、ハブを内蔵しているダイヤルアップルーターならば、ネットワークの構築やファイルの共有も非常に簡単だ。さらに、DHCPサーバー機能や簡易DNS機能を搭載したダイヤルアップルーターでは、めんどろなIPアドレスなどのLAN管理がいっそう容易になる。

出先から会社のコンピュータのファイルにアクセスしたい場合に便利なのが、リモートアクセスサーバー(RAS)の機能だ。たいていのダイヤルアップルーターにはこのRAS機能があり、ウィンドウズNTなどのOSがなくてもリモートアクセス環境が作れる。また、OCNなどを利用してインターネットに常時接続しているオフィスでは、仮想プライベートネットワーク(VPN)を使ったファイル共有も、VPNに対応するダイヤルアップルーターを利用することで実現できる。

唯一気になるアプリケーションへの対応も、多くがネットワークゲームであることを考えれば、SOHOなど仕事での利用にはあまり支障はきたさなはずだ。

以上のようなことからPC複数台の環境の場合、TAに勝ち目はないと断言できる。

POINT

PC複数台の環境に導入する場合の評価ポイント

	TA	ルーター
複数のPCから同時にインターネットにアクセスできる	×	
ファイルの共有が簡単	×	
DHCP対応でネットワークの構築が簡単	×	
サーバーなしでVPNを実現	×	



用途で決まるダイヤルアップルーターの選び方

この1年の間に、ダイヤルアップルーターの機種が増えて、選択の幅が広がっている。各メーカーとも、ハードウェア、ルーター機能、アナログ機能、それぞれに特徴ある機能を持たせてきているが、ここでは、ダイヤルアップルーターを選ぶうえで、押さえておきたいポイントのいくつかを、PC1台の場合とPC複数台の場合に分けて解説しよう。

PC1台の場合

必要なポートは揃っているか

まず、最初のチェックポイントはポートの数だ。最も重要なのはイーサネットポートで、PC1台なら1ポートで十分と考えがちだが、先月号でも紹介したプリントサーバーをつなぐ場合に必要になるなど、応用の幅は広い。ルーターにつながるのPCだけではないことを忘れずに。

さらに、電話機をつなぐアナログポート、TAなどを増設するためのS/T点など、必要な数が確保できるかどうかを必ずチェックしておきたい。また、まれにDSUが切り離せない機種があるので、TAなどと組み合わせて使う場合は気を付けてほしい。テレコムデバイスのNetCruzは、アナログ S/T点、イーサネットの各ポートを前面にも配して使い勝手がよく、ポート数のバランスもよい。また、NTT-TE東京のMN128-SOHO SL10とヤマハのRTA50iがアナログポートを3つ持つ。アンリツのSurfin'boy 1/proも低価格ながらポート数は充実している。

電話機能は満足できるか

電話機能でよく使うのはナンバーディスプレイやフレックスホンなどだが、TAに比べてアナログポートや電話機能への対応はやや遅れているのが現状だ。ダイヤルアップルーターは、どうしてもデータ通信に関する機能がクローズアップされがちだが、自宅を使うのなら電話機能のしっかりしたものを選びたい。古河電工のMUCHO-TL-DSUやエレコムのViA LOOP 6010は、フリー転送機能などアナログ機能が充実しているし、MN128-SOHO SL10は液晶画面に電話番号や通話料金が表示できて便利だ。

設定は簡単か

LANカードの設定だけでも大変なのに、ダイヤルアップルーターの設定が難しかったらもうお手上げだ。どのメーカーのルーターでも「かんたん設定」などの機能を持ってはいるが、それだけでは満足せず、「詳細設定」での分かりやすさを追求してダイヤルアップルーターを選ぶべきだろう。設定は、NECのComstarz Routerが最も簡単だ。プロバイダーのアクセスポイントまで自動設定してくれるものはほかにはないし、設定の項目も分かりやすい。ヤマハのRTA50iとNTT-TE東京のMN128-SOHO SL10も良くまとめられた設定画面で使いやすい。

アプリケーションで動作しないものはないか

ダイヤルアップルーターでは、端末型ダイヤルアップ接続を行うので、NATやIPマスカレードなどのアドレス変換機能が必須だ。しかし、この機能を使うと動作しないネットワークゲームやアプリケーションが存在する。この点は、各社ともファームウェアのバージョンアップで対

応を進めているが、富士通のNetVehicle-fx3とNECのComstarz Routerは比較的対応がいいようだ。また、TA機能のあるダイヤルアップルーターでは、TAとして使えばこういった問題は発生しない。

停電対策は用意されているか

家庭で使う場合、停電対策にも気を配っておきたい。短い間の停電ならその間電話が使えないだけのことだが、災害などいざというときのことも考えておきたい。富士通のNetVehicle-fx3は局側給電で動作するDSUを内蔵した注目の機種だ。

課金制御機能はあるか

テレホーダイの時間帯に自動接続したり自動切断しないようにしたりできる、いわゆる「テレホーダイ対応機能」は、ヘビーユーザーにとっては必須の機能だ。また、時間によるリミッターや無通信が続くと自動切断する機能なども、通信料金が気になる個人ユーザーが安心して使うための標準機能だといえるだろう。

今あるTAやモデムがダイヤルアップルーターに変身！

NetGenesis4

マイクロ総合研究所のNetGenesis4は、TAやモデムをシリアルケーブルで接続して利用するダイヤルアップルーターだ。価格も安く、既存のTAを有効利用できるのがメリットだ。シリアルポートが2つあるので、モデムをRASで利用することもできる。4ポートのハブやDHCP機能などLAN環境を支援する機能も充実していて、機能的にも今回紹介しているようなISDNダイヤルアップルーターに引けを取らない。



見た目はモデムと似ている。背面には、4ポートハブと2つのシリアルポートがある。

発売元：マイクロ総合研究所
価格：オープンプライス
URL：<http://www.mrl.co.jp/>

PC複数台の環境に導入

安定度は高いか

仕事で使うネットワーク機器は、とにかく安定して動くことが大切だ。夏になると熱暴走を繰り返してみたり、ファームウェアのバージョンアップのたびに新たなバグが紛れ込んだりするようでは、安心して使うことができない。本格的な業務用レベルとは言わないまでも、安定度が期待できるダイアルアップルーターを選びたい。この点では、最新の機種よりも実績のある旧機種やその旧機種の流れをくむバージョンアップの歴史に裏打ちされたものが強い。ヤマハや古河電工、富士通の製品、それに多くのユーザーに使われ実績を積んだNTT-TE東京のMN128-SOHOシリーズなどは、安心できるブランドだ。また、新しい機種であっても、ユーザーサポートやファームウェアの確実な改善とバージョンアップが期待できれば選択肢に入れられるだろう。

ユーザーズグループと周辺ツールはあるか

著名なダイアルアップルーターでは、たいていユーザー主導のメーリングリストがある。便利な使い方やうまく設定できないときの相談など、豊富な情報源として大変便利なものだ。中には、メーカーの開発陣が直接参加して、ユーザーの要望を集約し、次のバージョンのファームウェア開発に役立てるというメーカーもあるほどだ。もちろん、ユーザー同士の情報交換の場というのが原則だが、メーカーのユーザーサポートよりも対応が早く、頼りになる存在であることは間違いない。このようなメーリングリストの有無が、ダイアルアップルーターの使いやすさを大きく左右していることも事実だ。

また、ダイアルアップルーターをコントロールしたり管理したりする周辺ツールの存在も大きい。MN128-SOHOを効果的に設定管理できるシェアウェア「SOHoman」や、MUCHOシリーズ用に古河電工が提供する「MUCHOコントローラー」など、便利なツールが使えるかどうかでその使い勝手は大きく変わってくる。

管理機構はあるか

PCが複数台ある環境に導入する場合に必ず必要になるのがハブとDHCP、ProxyDNSだ。特に、複数のプロバイダーを使い分ける場合は、ProxyDNSがないと設定が面倒になる。LAN内にイントラネットサーバーを置く場合には、DHCPのスタティックな割り当てといった管理機能の充実したものが便利だ。また、複数のスタッフが利用することを考えると課金や接続時間を管理しやすいダイアルアップルーターが望ましい。その点、syslog機能のあるものは細かな管理も簡単だ。このような管理機能の面では、NTT-TE東京のMN128-SOHO SL10、富士通のNetVehicle-fx3、ヤマハのRTA50iが一歩リードしている。

フィルター機能は充実しているか

さすがにフィルター機能を搭載していないダイアルアップルーターはない。この機能はSOHOでは必須だ。当初、マイクロ総合研究所のNet Genesis4にフィルター機能がなく、ユーザーからの強い要望でファームウェアで対応した例がある。実は、機種によって設定できるフィルターの数や細かな機能に差がないわけではないが、それが問題になるのはOCNエコノミーや専用線で利用する場合など、セキュリティーを厳しくしたい環境で使う場合だ。ISDN回線で使うなら、どのルーターでも必要かつ十分な機能を備えている。

セキュリティー面を考慮するならsyslogにフィルターの処理のログが残るダイアルアップル

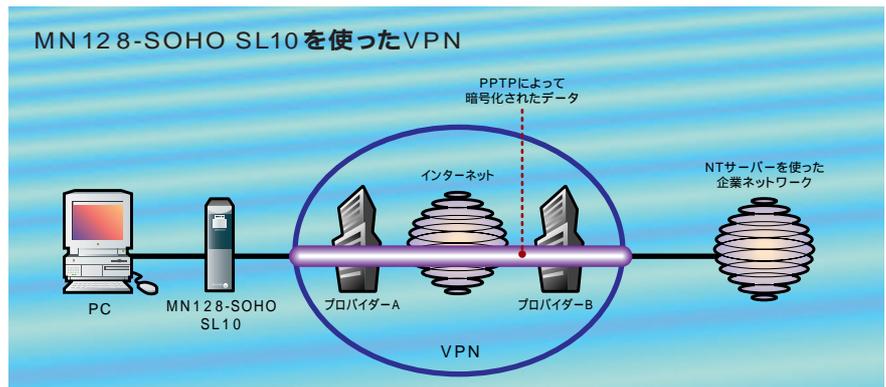
ーターが望ましい。ネットワークへの不正アタックを把握できるからだ。この点では、ヤマハのRTA50iがおすすめだ。

RAS機能は充実しているか

ダイアルアップルーターをRASで使う場合に、外出先から接続する手段としてPHSのPIAFSが選ばれるケースが多い。したがって、RASとして利用するのなら、PIAFSに対応しているダイアルアップルーターを選びたい。また、セキュリティーや課金管理のことを考えると、コールバックの機能も欲しいところだ。ヤマハのRTA50i、NTT-TE東京のMN128-SOHO SL10、富士通のNetVehicle-fx3はこれらの条件をすべて満たしている。

VPNと暗号化に対応しているか

VPNを利用するのは、主に専用線でインターネットに接続している環境との接続の場合だ。VPNが使えれば直接RAS接続せず、普通のインターネット接続を行うだけで「仮想」のネットワークとして安全に利用できる。複数のオフィスを持つ企業や在宅勤務などでは、VPNを仕事に使うケースが増えてきそうだ。また、このような用途では暗号化機能はあったほうがよいだろう。NTT-TE東京のMN128-SOHO SL10は暗号化されたPPTPをサポートしており、ウィンドウズNT4.0やウィンドウズ98のPPTPとも接続できるPPTPサーバー機能を持つ唯一のダイアルアップルーターだ。





IPマルチキャストからメール着信通知まで

注目の最新機能ベスト5

ダイヤルアップルーターは、ユーザーの要望や新しい技術に対応するために日々進化している。ここで紹介する注目の新機能は、新機種はもちろん、ちょっと古い機種でもファームウェアで対応しているものもあるので、各メーカーのホームページをよくチェックしてほしい。

① IPマルチキャスト

IPマルチキャストは、マルチメディアの配信を効率よく行うためのインターネットの新しい仕組み。IIJ4UではIPマルチキャストを用いた配信実験をすでに開始している。これを利用するためには、IPマルチキャストに対応したダイヤルアップルーターが必要だ。IIJのSEILと古河電工のMUCHO-TL-DSUの2機種で、IPマルチキャストでの動作が確認されている。

② メール着信通知サービス

メール着信通知機能への対応が、ルーター

でも進み始めた。富士通のNetvehicle-fx3には、ユーザー間情報通知サービスを使ったInfoWeb対応のメール着信通知機能が、またNECのComstarz Routerには、POPサーバに問い合わせるメール着信確認機能がそれぞれ搭載されている。ヤマハの最新機種RTA50iでも次期ファームウェアでは対応の予定ということだ。

③ ナンバーディスプレイ

ナンバーディスプレイに対応したアナログポートの搭載がダイヤルアップルーターでも進ん

でいる。使ってみると電話を取る前に相手为谁なのかが分かるこの機能はやはり便利。IIJのSEIL以外はすべて対応している。

④ マルチルーティング

複数のプロバイダーと接続して同時に利用できる、マルチルーティングの機能を備えるダイヤルアップルーターが登場してきた。富士通のNetVehicle-fx3では、発信元のIPアドレスによって区別するソースルーティングと、ポート番号で区別するポートルーティングがサポートされている。

⑤ 最新LAN機能

NTT-TE東京のMN128-SOHO SL10が簡易DNS機能を搭載したり、ネットワーク機器メーカーであるテレコムデバイスのNetCruzが100BASE-TXにオプションで対応したりするなど、LAN機能の充実も注目のポイントだ。

ダイヤルアップルーター機能一覧表

製品名	NetVolante RTA50i	MN128-SOHO SL10	NetCruz	NetVehicle-fx3	Comstarz Router CMZ-RT-D2	
メーカー名	ヤマハ(株)	NTT-TE東京(株)	テレコムデバイス(株)	富士通(株)	NEC	
定価	49,800円	69,800円	68,800円	68,800円	58,800円	
実売価格		53,800円	49,800円	47,800円	44,800円	
読者の問い合わせ先	0120-808384	0120-128037	03-3403-5755	0120-89-4321	0120-498-563	
ハードウェア	DSU					
	液晶ディスプレイ	x		x	x	
	停電対策	単3乾電池x8本	単3乾電池x6本	単3乾電池x8本	単3乾電池x8本	オプション(単3乾電池x6本)
	停電対策の対象	アナログポート1	アナログポート1	アナログポート1	アナログポート1、DSU(局給電)	全機能
	イ・サネットポート	3	4	2+1(フロント)	4	4
	S/T点	2	2	1+1(フロント)	2	1
ISDN機能	アナログポート	3	3	2+1(フロント)	2	
	ナンバーディスプレイ					
	フレックスホン					
	ボイスワープ					
TA機能	MP/BACP					
	TA機能			x	x	
ルーター機能	RVS-COM対応	12月のバージョンアップで対応予定		x	x	
	アドレス変換機能	NAT、IPマスカレード	AutoNAT	eNAT	NAT、マルチNAT	NAT、NATe
	ルーティングプロトコル	RIP、RIP2、スタティック	RIP、スタティック	RIP、RIP2、スタティック	RIP、RIP2、スタティック	RIP、スタティック
	DHCP	サーバー、リレー	サーバー	サーバー	サーバー	サーバー
	DHCPの静的割り当て			x		x
	ProxyDNS		(AutoDNS)			
	簡易DNS	1		x		
	複数プロバイダー対応					
	マルチルーティング	x	11月のバージョンアップで対応予定	x		
	RAS機能					
	VPN機能	x	PPTP	x	x	x
	専用線対応	OCNエコノミー、64Kbps、128Kbps	OCNエコノミー、64Kbps、128Kbps	OCNエコノミー、64Kbps、128Kbps	OCNエコノミー、64Kbps、128Kbps	OCNエコノミー、64Kbps、128Kbps
	コールバック	無課金、ウィンドウズ95互換	無課金、ウィンドウズ95互換	無課金、CBCP	無課金、CBCP	LCP
	データ圧縮	StacLZS、VJC	x	StacLZS、VJC	StacLZS	StacLZS
PIAFS					x	
管理機能	テレホーダイ対応機能					
	異常課金制御機能	料金	料金、回数、連続接続時間	x	料金、総接続時間	課金累計機能のみ
	syslog機能			x		
設定方法	ウェブ設定機能					
	telnet設定機能					
	専用設定ツール		MNマスター	NetCruzマネージャー		
	電話機からの設定機能			x	x	
付加機能	メール着信通知機能	12月のバージョンアップで対応予定	x	x	(InfoWebのみ)	
	その他の機能	LAS機能、疑似LAN接続	LAS機能	ブリッジ機能	リモートパワーオン、省電力機能、スケジューラ機能	掲示板機能、フロントボタン
メンテナンス機能	ファームのアップデート方法	tftp	専用アップデーター	ftp、tftp、xmodem	ftp	WWWブラウザ
スペック	サイズ(W x D x H(ミリ))	104 x 130 x 131	60 x 200 x 220	106 x 207 x 176	280 x 210 x 45	210 x 170 x 40
	重量	0.8kg	1kg	1.4kg	2kg	0.8kg

1 リカーシブサーバー機能という簡易DNSと同様の機能がある。

2 ホームページからダウンロードできる「ナンバーディスプレイユーティリティ」を利用すれば、PCの画面に発信者番号と発信者名を表示できる。



ダイヤルアップルーターの歴史とメーカーリスト

PCが複数台ある環境に導入する場合の選択ポイントでも説明したとおり、ダイヤルアップルーターを仕事で使う場合は、機能だけで選ぶわけにはいかない。その安定性やサポートも重要なポイントとして考慮する必要があるのだ。しかし、安定度やサポートの実態は使ってみて初めて分かることであり、購入前に知ることは難しい。そこで、安定度を測る指標として、その

ダイヤルアップルーターの歴史やファームウェアのアップデート状況を知るのが近道だ。たとえば、ヤマハのRTA50iは、RT100iに始まりRT102iへの改良、RT80iでの個人ユーザーへの対応とコストダウンといった経過を経て開発されたものであり、新製品ながらその安定性は想像できる。また、NTT-TE東京のMN128-SOHO SL10も同様に、MN 128-SOHOの弱

点を抜本的に改良したものだ。一方、サポートについてはユーザーのメーカーリストが役に立つ。ヤマハ、NTT-TE東京、富士通、古河電工のダイヤルアップルーターにはユーザーの主宰するメーカーリストが存在する。これらに参加すると、そのルーターの実力も分かってくるし、問題点も解決できる。購入前でも参加できるので、利用してみよう。

ユーザーメーカーリスト一覧

製品名とメーカーリスト名	申し込み先URL	説明
NTT-TE東京 MN128-SOHOシリーズ MN128-SOHOメーカーリスト	http://www.ff.ij.4u.or.jp/ueda/MN128/	MN128-SOHOの人気の高さを反映して、メールの数はかなり多い。それだけに有用な情報も頻りに流れていて役に立つ。
ヤマハ RTシリーズ rt100i-users(ユーザーズML)	http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/users.html	最新ファームウェアや 版の情報なども流れる情報の濃いメーカーリスト。ネットワーク管理者の参加も多い。
古河電工 MUCHOシリーズ infusers メーカーリスト	http://www.furukawa.co.jp/network/mucho/MAIL/mail.html	古河電工自らが運営するユーザーのためメーカーリスト。業務用のルーターも多いので、やはりプロ志向が強い。
富士通 Net Vehicleシリーズ netvehicle-users メーカーリスト	http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/Products/telcom/NV/Etc/usersML.html	流れるメールはあまり多くないが、富士通の社員も個人の立場で参加するなどサポートは良い。

	Surfin'boy 1/pro	MUCHO-TL-DSU	IJ SEIL	VIA LOOP 6010	製品名
	アンリツ(株) 49,800円	古河電気工業(株) 68,800円	(株)インターネットイニシアティブ 29,800円 49,800円(DSUとのセット価格)	エレコム(株) 68,800円	メーカー名
	39,800円	49,800円		49,800円	定価
	03-3473-7211 (切り離し不可)	03-3286-3116	03-5205-4444	03-3981-4491	実売価格
	x	x	x	x	読者の問い合わせ先
	(バッテリーパック別売)	単3乾電池x6本	x	x	DSU
	全機能	アナログポート1	x	x	液晶ディスプレイ
	4	1	1	1	停電対策
	2	1	1	1	停電対策の対象
	2	2	x	2	イ-サネットポート
	2		x		S/T点
	x		x		アナログポート
	x		x		ナンバーディスプレイ
	MPのみ		x		フレックスホン
	x	x	x	x	ボイスワープ
	x				MP/BACP
	x	x	x	x	TA機能
	NAT, IPマスカレード	NAT, NAT+	NAT, NATp	NAT, NAT+	RVS-COM対応
	RIP, スタティック	RIP, スタティック	スタティック	RIP, スタティック	アドレス変換機能
	サーバー	サーバー	サーバー	サーバー	ルーティングプロトコル
	x	x	x	x	DHCP
	x	x	x	x	DHCPの静的割り当て
	x	x	x	x	ProxyDNS
	x	x	x	x	簡易DNS
	x		x	x	複数プロバイダー対応
	x		x	x	マルチルーティング
	x		x	x	RAS機能
	x	x	x	x	VPN機能
	OCNエコ/ミ、64Kbps、128Kbps	OCNエコ/ミ、64Kbps、128Kbps	64Kbps、128Kbps	OCNエコ/ミ、64Kbps、128Kbps	専用線対応
	x	無課金、CBCP	x	無課金、CBCP	コールバック
	StacLZS、VJC	StacLZS、VJC	x	StacLZS	データ圧縮
	x		x		PIAFS
	x	x	x	x	テレホ-ダイ対応機能
	料金	連続接続時間	x	連続接続時間	異常課金制御機能
	x		x	x	syslog機能
	x	x	x	x	ウェブ設定機能
	x	構成定義情報設定ユーティリティ	x	ViaLOOP設定ユーティリティ	telnet設定機能
	x	x	x	x	専用設定ツール
	電源アダプターにU点内蔵	IPマルチキャスト対応	IPマルチキャスト対応	-	電話機からの設定機能
	WWWブラウザ	ftp、専用アップデーター	WWWブラウザ	ftp	メール着信通知機能
	210 x 150 x 34	180 x 30 x 69	130 x 180 x 35	180 x 139 x 66.5	その他の機能
	0.4kg	0.6kg	0.3kg	0.6kg	ファームのアップデート方法
					サイズ(W x D x H(ミリ))
					重量
					メンテナンス機能
					スペック



充実のダイヤルアップルーターラインナップ

今回紹介しているダイヤルアップルーターにはそれぞれ特徴がある。まず、これまで紹介してきた選び方のポイントの中から自分のニーズに合った機能やサービスを決めたいうえで、それぞれのダイヤルアップルーターの機能をしっかりチェックしよう。そして、自分の環境にぴったり合ったダイヤルアップルータを選び出してほしい。

RTの伝統を受け継いだ高性能ルーター

Net Volante RTA50i

10月10日に発売されるヤマハのRTシリーズの最新機種だ。RTシリーズは歴史も古く、高性能と安定性でネットワーク管理者から広く支持されてきたルーターだ。RTA50iは、このRTシリーズの伝統を受け継ぎつつ、業務用の機能を削り、家庭やSOHO向けの機能を充実させたモデルだ。従来機種とは大きく異なる立方体の黒い箱の直線を生かしたシャープなデザインが特徴だ。

前機種であるRTA80iとの違いは、3ポートハブの内蔵、S点を2つ、アナログポートを3つに増やしたことなどがある。また、MN128-SOHOの特徴的な機能であったシリアルポートを使った擬似LAN機能(LAS)やTA機能を搭載して、MN128-SOHOと真っ向から対決

する高機能ルーターに仕上がっている。このほかにも、テレホーダイ対応機能や異常課金を上限料金で抑止する機能、NTPによる時刻合わせ、スケジュール実行など、RTシリーズではおなじみの高機能も変わっていない。これだけ高機能で定価49,800円はおどろきだ。



端末型接続設定では、比較的簡単に設定が完了する。オプションには、CU-SeeMeへの対応設定なども用意されている。

ヤマハ株式会社

49,800円

サイズ(ミリ) : 104(W)×130(D)×131(H)
問い合わせ先 : 0120-808384
URL : <http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>



写真左上から下へ、10BASE-Tポート4つ、RS-232Cポート。中央左上から下へ、アナログポート3つ、アース端子。中央右上から下へ、U点、DSU切り離しスイッチ、S/T点2つ、終端抵抗切り替えスイッチ、LAN切り替えスイッチ。右上から下へ、電源スイッチ、電源。

VPN機能が強化された人気ルーター

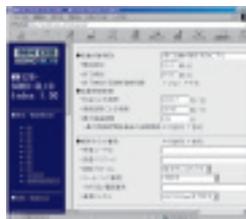
MN128-SOHO SL10

「DSUが切り離せない」、「熱がこもりやすい」といった初代MN128-SOHO/DSUが持っていた弱点を克服して、設定の分かりやすさに加えて、PPTPによる仮想ネットワーク機能、CPUのパワーアップ、DHCPやDNS機能などを強化したのがMN128-SOHO SL10だ。

磨きがかかったのは、まずPPTPだ。これは、VPNの構築に不可欠な機能で、MN128-SOHO SL10では新たに暗号化機能が付加されて実用的なレベルでも満足のいくものとなった。ウィンドウズ98もPPTPに対応したので、さらに普及すると思われる目玉機能だ。

内部設計では発熱対策がとられた。MN

128-SOHO/DSUとは異なり、2枚の基板が余裕を持って配置されていて、中央部に空気の通り道が確保された。縦置き専用になったことと相まって、気になる熱暴走問題もクリアだ。また、DHCPやProxyDNSなどにも更なる改良が加えられ、テレホーダイ対応機能も追加。MN128-SOHOユーザーの声に応えた高機能をバランスよく取り込んでいる。実績の違いを感じさせられるルーターだ。



テレホーダイ機能や異常課金抑止機能が搭載されたMN128-SOHO SL10の設定画面。

NTT-TE東京株式会社

69,800円

サイズ(ミリ) : 60(W)×200(D)×220(H)
問い合わせ先 : 0120-128037
URL : <http://www.te-tokyo.co.jp/>



写真左上から下へ、極性反転スイッチ、U点、DSU切り離しスイッチ、S/T点2つ、終端抵抗切り替えスイッチ、電源スイッチ。右上から下へ、アナログポート3つ、RS-232Cポート、LAN切り替えスイッチ、10BASE-Tポート4つ。



サービスソケットと操作パネルが特徴の新進ルーター

NetCruz

テレコムデバイス初のダイヤルアップルーターであるNetCruzは、8月に発売されたばかりの新製品だ。このNetCruzは、前面のパネルに秘密がある。パネルを開けると設定のためのダイヤルとボタン、S/T端子、アナログポート、10BASE-Tポートの3つの「サービスソケット」が用意されているのだ。ダイヤルとボタンは、主にアナログポートやDSUなどの回線に関する設定をするためのもので、TAでは似たような例があるものの、ダイヤルアップルーターでは初の機能だ。この「サービスソケット」は、ノートパソコンのLANカードを持ち運びのために抜き差しすることの多いユーザーにとっては非常に便利な機能だろう。まさに、ビデオの前面入力端子と同じ発想だ。

機能面でユニークなのはブリッジ機能だ。この機能はIP以外のパケットをそのままWAN

側に流してしまえる。NetBEUIやAppleTalkだってそのまま流してしまえるのだ。また、DSUの自動識別切り離し機能、TA機能内蔵、100Mイーサネット対応など、他の機種にはない最新機能満載の新進ルーターだ。

設定項目はフレーム表示で分かりやすく配置されている。



前面にもS/T点1つ、アナログポート1つ、10BASE-Tポート1つがある。TAなどではおなじみの設定ダイヤルは使いやすい。

テレコムデバイス株式会社 68,800円

サイズ(ミリ) : 106(W)×207(D)×176(H)

問い合わせ先 : 03-3403-5755

URL : <http://www.tcd.co.jp/>

写真左上から下へ、10BASE-Tポート2つ(オプションで100BASE-TXに変更可能)、右上から下へ、アナログポート2つ、終端抵抗切り替えスイッチ、S/T点1つ、U点1つ、RS-232Cポート、電源スイッチ、電源アース端子。



管理機能の充実したSOHO向けルーター

NetVehicle-fx3

NetVehicle-fx3は、やや大きめの富士通ブランドらしい堅牢な筐体の特徴のルーターだ。機能面も同様で、欲しい機能が余すところなくサポートされているという安心感がある。

WWWブラウザからの設定は、シンプルで分かりやすい「かんたん設定」と、細かな設定項目がよく整理されて使いやすい「詳細設定」に分かれている。特に、設定項目をクリックすると表示されるヘルプ画面は、詳細設定の画面で細かな設定作業をするときに、いちいちマニュアルを参照しなくてもいいので非常に便利だ。

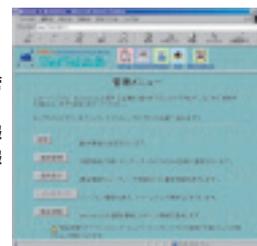
また、特徴的なのは、マルチレーティングに対応している点だ。IPアドレスまたはポート番号によって、複数のプロバイダーを使い分けられるこの機能は、たとえば電子メールの送受信とウェブアクセスとで別のプロバイダーを利用

するといったことができるようになる。また、syslogにアナログポートの発着信ログが残る機能も便利だ。個人向けのみならず、SOHOクラスでも十分実力を発揮する機能と性能を持つ高機能ルーターだ。

富士通株式会社 68,800円

サイズ(ミリ) : 280(W)×210(D)×45(H)

問い合わせ先 : 0120-89-4321

URL : <http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/Products/telcom/NV/>

NetVehicle-fx3の管理メニュー画面では、接続状態やログ情報など、欲しい管理情報が簡単に見られる。



写真左からAC電源入力、電源スイッチ、10BASE-Tポート4つ、RS-232Cポート、アナログポート2つ、U点、S/T点2つ、ALTスイッチ。



簡単設定のビギナー向けルーター

Comstarz Router CMZ-RT-D2

とにかく、こんなに簡単な「かんたん設定」はほかにはない。BIGLOBE、IIJ4U、ASAHI ネット、So-net、BEKKOAME/INTERNET、リムネットの6社だけとはいえ、「アクセスポイントかんたん選択」でアクセスポイントの一覧から選ぶだけで、電話番号やDNSアドレスが自動設定されるという究極の「かんたん」設定なのだ。残ったIDとパスワードを手入力するだけで設定が完了してしまう。

他のメーカーに比べてアナログポートなどの基本機能の弱さは若干感じるものの、データ通信主体のISDNダイヤルアップルーターとして使う限りはまったく問題ないレベルだ。特徴の1つ、フロントの「接続/切断」スイッチは、押すことで強制接続あるいは切断できる機能のほか、メール着信確認にも使用できる。メール着信確認は、POPサーバーにアクセスす

る方式なので、どのプロバイダーでも利用が可能だ。また、特定のコンピュータでルーターを占有する「独占」機能や、BBS掲示板の機能など、独自の機能を数多く持つダイヤルアップルーターだ。

NEC 58,800円(DSUなし51,800円)
サイズ(ミリ) : 210(W)×170(D)×40(H)
問い合わせ先 : 0120-498-563
URL : <http://ccsd.biglobe.ne.jp/comstarz/>

プロバイダーを選択するだけで簡単に設定ができる。できることなら、プロバイダーデータの更新も自動化してほしい。



写真左から、電源入力端子、アナログポート2つ、10BASE-Tポート4つ、アース端子、S/T点、DSU切り離しスイッチ、U点、極性反転スイッチ。

U点を電源アダプターに内蔵

Surfin'boy 1/pro

Surfin'boy 1/proは、アンリツが初めて手がけたISDN機器だ。機能の比較表で他社の最新ルーターと比べると、アナログポートの数やフレックスホン、ボイスワープなどの電話機能の少ないのが気になるが、DSUを内蔵して定価49,800円、実売価格では4万円を切った大胆な低価格化は賞賛に値するだろう。TAと肩を並べた価格設定で、気軽に買えるダイヤルアップルーターだ。

Surfin'boy 1/proの最大の特徴は、U点が電源アダプターに内蔵されていることだ。また、本体も小さく軽量で、ルーターの入門機といった趣き。小さいながら、DHCP、NAT+、IPマスカレードなどの最低限の機能は備わっている。

ただ、DSUが切り離せない、アナログ機能が不十分、BOD機能がなくなど、機能的な制約も多い。また、設定画面も整理ができて

いないという感じで、決して設定しやすいとは言えない。価格が安いメリットはあるが、機能面をよく検討して使ったほうがよいだろう。

アンリツ株式会社 49,800円
サイズ(ミリ) : 210(W)×150(D)×34(H)
問い合わせ先 : 03-3473-7211
URL : <http://www.anritsu.co.jp/>

設定画面はゴチャゴチャしていてちょっと分かりにくい。もう少し整理が必要ではないだろうか。



電源アダプターにU点が内蔵されている。



写真左から、電源入力端子、アース端子、リセットスイッチ、S/T点2つ、終端抵抗切り替えスイッチ、アナログポート2つ、10BASE-Tポート4つ。

Product Showcase



実績を積んだ安心感あふれるルーター

MUCHO-TL-DSU

MUCHOシリーズの個人とSOHO向けのラインナップがMUCHO-TL-DSUだ。MUCHOシリーズは安定した動作で業務用分野では根強い人気を誇り、実際長年使われてきた実績を買われて採用されるケースが多いと聞く。

機能面で目につくのは、アナログ機能の強さだ。INSネット64への対応にとどまらず、擬似フレックスホーン機能、転送機能、中継機能などトップクラスの機能を持つ。ルーター機能では、派手な新し

い機能こそないものの、NAT+、DHCP、無課金コールバック、PIAFSへの対応など、ダイヤルアップとリモートアクセスに必要な機能を備えている。

設定は専用の設定ユーティリティーか、コンソール、telnetで行い、WWWブラウザでの設定はできない。

設定をファイルとして簡単に保存できるので、メンテナンス性も悪くない。



古河電気工業株式会社 68,800円

サイズ(ミリ) : 180(W)×130(D)×69(H)
問い合わせ先 : 03-3286-3116
URL : <http://www.furukawa.co.jp/network/mucho/mucho.html>



写真左から、電源、アース端子、LAN切り替えスイッチ、10BASE-Tポート、極性反転スイッチ、U点、S/T点、アナログポート2つ。

IIJユーザのためのIIJ純正ルーター

IIJ SEIL

本体定価29,800円は、DSUなしとはいえ、ダイヤルアップルーターとしては破格の値段だ。機能面は、IIJとのダイヤルアップIP接続とIIJエコミーの利用を前提とした必要最低限のものだけがサポートされる。もちろん、IIJでなくても利用できるようにはなっているものの、やはりIIJで使うのが正解だろう。IIJに関してはアクセスポイントも一覧表示で設定できるし、ルーターからのオンラインサインアップにも対応している。特徴的なのは、IIJがサービスするIPマルチキャストに対応していること

だ。セットのIIJ DSU(定価24,800円)は、アナログポートを2つ、S/T点を2つ搭載した多機能DSUだ。アナログポートが必要ななら、このDSUを使うといいだろう。

IIJに特化した設定項目が並ぶ。DHCPのDNSアドレスなどにも、IIJのものあらかじめ設定されている。

株式会社インターネットイニシアティブ 29,800円
(DSUとのセット価格は49,800円)

サイズ(ミリ) : 130(W)×180(D)×335(H)
問い合わせ先 : 03-5205-4444
URL : <http://whhttp://www.ij.ad.jp/>



写真左から、電源入力端子、終端抵抗切り替えスイッチ、ISDN、10BASE-Tポート、LAN切り替えスイッチ。

アナログ機能の充実した新ルーター

ViaLOOP 6010

LAN製品でおなじみのエレコムLaneedのViaLOOP 6010は、DSU内蔵でアナログポートの機能が充実したダイヤルアップルーターだ。ナンバーディスプレイやフレックスホーンはもちろん、アレクソンのALEX-TD503で採用されているフリー転送や追っかけ転送、中継機能など同等のTA顔負けのアナログ機能が搭載されている。

ルーター機能でも、2か所同時接続が可能ならば、DHCP、NAT+、PIAFS対応など、基本的な

機能をきっちりとサポートしている。

設定は、専用のユーティリティーかtelnet、またはコンソールで行う形式で、WWWブラウザを使った設定には対応していない。設定ユーティリティーでは、「基本設定」を選べばウィザード形式で簡単に設定できる。

「ViaLOOP設定ユーティリティー」はシリアルポートとLAN接続のどちらでも動作する。



エレコム株式会社 68,800円

サイズ(ミリ) : 180(W)×139(D)×66.5(H)
問い合わせ先 : 03-3981-4491
URL : <http://www.elecom.co.jp/>



写真左から、電源、アース端子、LAN切り替えスイッチ、10BASE-Tポート、極性反転スイッチ、U点、S/T点、アナログポート2つ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp